

## 第21回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

**と き** 平成28年1月6日（水）  
**テーマ** 障害者の自立と社会参加  
**参加者** 松橋 智史さん（川崎）  
二木 正義さん（靱保）  
武岡 大貴さん（小原）  
日下 功 さん（川崎）  
荒井 幸治さん（野介代）  
小田 慶子さん（川崎）

障害者の自立と社会参加について、障害がある皆さんと支援をする皆さんと市長が意見交換を行いました。



**参加者** わたしは、グループホームで仲間と生活していて、自転車で職場に通勤しています。障害がある人が自立を目指して仲間と生活できるグループホームが増えてほしいと思っています。

**参加者** わたしは、発達障害と難病を持っていますが、家族や職場の皆さんの支援を受けながら仕事をしています。働くことが楽しいです。通勤に移動支援を使えるようになればと思っています。また、障害のある人が、働く自信を持つための実習の場があればと思っています。

**参加者** わたしは、特別支援学校を卒業した後、働きたいです。

**参加者（支援者）** 知的障害や発達障害がある人の親の会や支援団体などで構成する「手をつなぐ育成会」では、障害がある人を支援しています。

「住み続けたい、住んでみたい、誇りのある津山」を実現するために、障害者の自立と社会参加が必要だと思っています。障害のある人が、できることを一生懸命することで働く意欲が湧き、自分が頼りにされていると感じることが大切だと思っています。

また、津山圏域には障害がある人の働く場が少ないと感じます。市職員などとして受け入れてほしいです。

さらに津山市を障害者全体の特区にすることで、移動支援や雇用などの問題も解決することができるので、障害者に優しいまちづくりに向け、提案したいです。

**市長** 皆さんのがんばる様子に胸がいっぱいになりました。特区や移動支援、市役所での障害者雇用のことは、研究していきたいと思います。グループホームは、障害者の地域移行を目指す上で、増えてほしいと思っています。

これから、社会の中で障害がある皆さんの居場所や、必要とされているという気持ちを持つまちをつくりたいですね。